

保健環境研究所だより

もくじ

- ・ 就任のご挨拶 P1
- ・ 麻しん（はしか）の話 P2～P3
- ・ 「夏休み体験教室－科学の目で見なおそう身の周り」参加者を募集します P4



No. **116**
平成30年6月

就任のご挨拶



所長 前川 平

平成30年4月1日に京都府保健環境研究所所長に就任いたしました前川平でございます。

私は、これまで40年間、血液内科の医師として、また、京都府立医科大学、東京大学医科学研究所、京都大学の教官として、常に臨床のことを考えながら、基礎研究を行い、皆さまの健康にも関わることのあるような白血病などの造血器腫瘍やがんに対する疾患特異的な治療法の開発に取り組んでまいりました。

このように私の臨床医としての経験とそれに基づく基礎研究は、白血病の治療法の開発をはじめとして、細胞治療や移植治療といった広い分野に及んでいます。この間、平成11年9月30日に発生したJCOの東海村ウラン加工工場における臨界事故では、重篤な放射線被ばくを受けた作業員の方の臍帯血移植治療にも関わってまいりました。

近年多発している自然災害、阪神淡路大震災や、未だ復興途上にある東日本大震災に続き、熊本県や鳥根県でも大きな地震が発生しました。また、近い将来の発生が懸念されている南海トラフ大地震などに加えて、日本各地での家禽における鳥インフルエンザの発生、ノロウイルスによる集団食中毒や麻しん（はしか）などの感染症の発生も、府民の皆さまの不安材料となっています。

このようなさまざまな分野での健康危機の発生を未然に防ぎ、不幸にして生じた危機に対しては、その被害を最小限に抑えることは、臨床医として新しい治療法を開発し、病に苦しむ患者さんにその治療法を一刻も早く届けることに努力してきたことと相通じるものがあります。このように、これまで臨床医としての経験をもとに基礎研究を行ってきた私の経験と知識を基盤に、所長として、これからも府民の皆さまのニーズにお応えしなければと考えております。

京都府保健環境研究所は、皆さまが安心して、安全に暮らせるように、日々、感染症、食品、薬品、廃棄物などの試験検査や調査研究を行うとともに、河川水・地下水や大気、放射線といった生活環境の常時監視、アリなどの外来生物への対応も行い、これからも、府民の皆さまの健康の保持・増進と環境の保全に努めます。健康危機発生時には、検査や調査の迅速な対応を行い、京都府における健康や環境のための危機管理センターとしての役割を果たすことを念頭に置きながら、業務を推進していきたいと考えております。

近年は、京都市との協調の取組として、京都府保健環境研究所と京都市衛生環境研究所の合築工事に着手しています。

これを機に、京都市や府保健所との連携をいっそう深め、健康長寿社会の実現に向けて、府民の皆さまと共に歩むことができる研究所でありたいと願っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

麻しん(はしか)の話

今年に入り、沖縄県を中心に麻しん(はしか)の流行が連日報道されていました。

発端は今年の3月、沖縄県内で台湾からの旅行者が麻しんと診断されたことで、この旅行者と接触のあった人や同じ施設を利用した人を中心に沖縄県内の広い地域で麻しんの感染が続き、5月28日時点では99名の患者が沖縄県で報告されています。ゴールデンウィークもあり、旅行等により人の活動が活発化し、沖縄県外においても患者が発生する可能性があるため、広く注意喚起が行われました。

また、全国では沖縄県内で感染した患者が他県において発症しており、5月23日時点では沖縄県以外の事例も含めて162名の患者が報告されています。

このような麻しんの感染を拡大させないために、麻しんに関する知識をしっかりと持ち、適切な予防対策を講じることが大切です。

○麻しん(はしか)とは？

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。

麻しんウイルスは、空気感染、飛沫感染、接触感染によって、ヒトからヒトへ感染し、その感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

日本は、麻しん排除に取り組んでおり、平成27年3月に「麻しんの排除状態」であるとWHOの認定を受けました。「麻しんの排除状態」とは、国内に土着する麻しんウイルスによる12カ月間以上にわたる流行がない状態をいいます。

かつては、毎年春から初夏にかけて流行が見られていましたが、排除後は、海外からの輸入例や、輸入例を発端とした集団発生事例が認められる状況となっています。

○どのような症状？

麻しんは、感染後、潜伏期10日から12日を経て発症します。38℃前後の発熱が2日から4日間続き、倦怠感や咳、くしゃみ、結膜充血、目やに、羞明(過度にまぶしさを感じる症状)などが現れます。

その後、少し熱が下がった後に再び高熱が出て、耳の後ろや首、額に発疹が出現し、翌日には顔面、体幹部、上腕に、2日後には四肢末端にまで広がります。発疹が全身に広がるまで、発熱(39.5℃以上)が3日から4日間続きます。

その後、熱が下がり、全身の状態は改善し、発疹も退色しますが、色素沈着がしばらく残ります。合併症のないかぎり7～10日後には回復します。

合併症として、肺炎、中耳炎、クループ症候群(喉頭炎などの呼吸器疾患の総称)、脳炎があり、麻し

んウイルス感染後、数年から十数年以上経過して進行性の中樞神経症状などの重篤な症状を引き起こす亜急性硬化性全脳炎(SSPE)を発症する場合があります。

修飾麻しんは、麻しんの典型的な症状を示さず、軽症で、感染力も麻しんと比較すると弱いと言われています。麻しんウイルスに対する免疫が不十分な場合、例えば母体からの移行抗体をもつ乳児、麻しん含有ワクチンによる免疫が不十分な場合などには、修飾麻しんとなり、潜伏期間も14日以上になることがあります。症状は、微熱、発熱期間が短い、最初の倦怠感等を認めない、限局性の発疹などです。修飾麻しんは、症状のみから診断することは困難で、検査診断が必要です。

○治療・予防の方法

発症すると特異的な治療法はなく対症療法が中心となります。

麻しんは空気感染するため、手洗いやマスクでは予防ができません。そのため、ワクチンによる予防が最も重要になります。

麻しん含有ワクチン(主に接種されているのは、麻しん風しん混合(MR)ワクチン)を接種することによって、93%以上の人が麻しんウイルスに対する免疫を獲得することができるとされています。また、2回の接種を受けることで1回の接種では免疫がつかなかった方の多くに免疫をつけることができます。さらに、接種後年数の経過と共に、免疫が低下してきた人に対しては、2回目のワクチン接種を受けることで免疫を増強させる効果があります。

日本では、2006年度からMRワクチンを用いた第1期(1歳児を対象)、第2期(小学校就学前の1年間の幼児を対象)の2回接種が定期的予防接種に導入され、現在も継続中です。

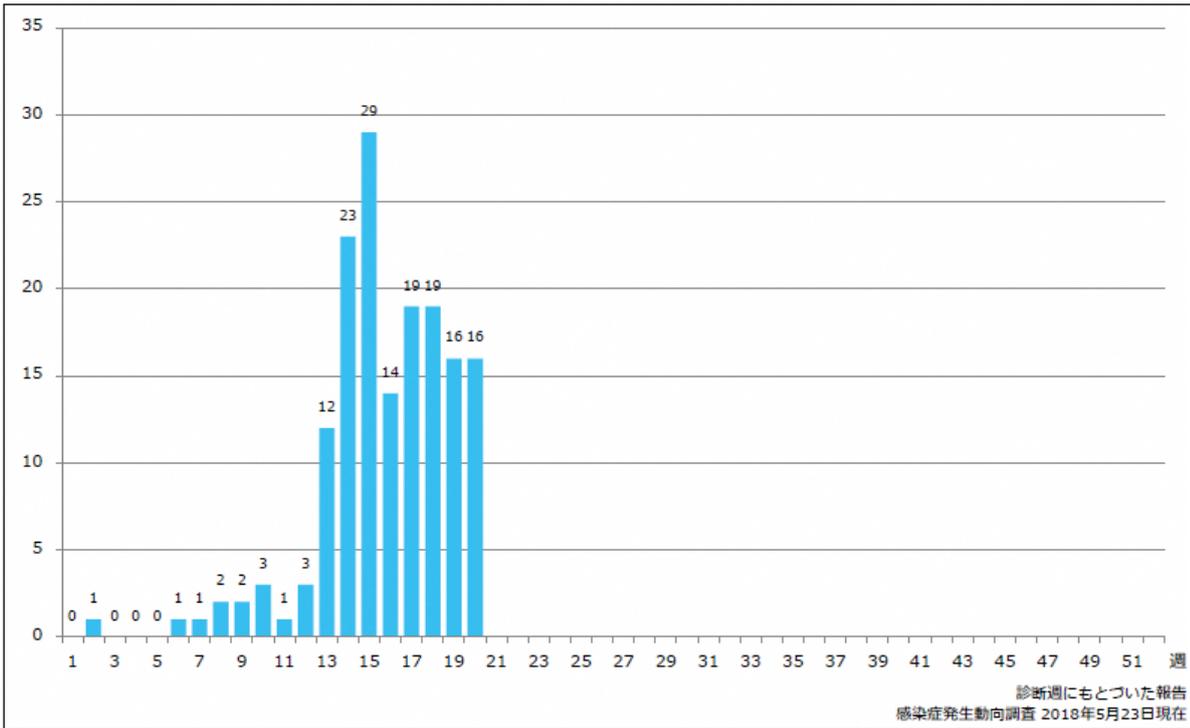
しかし、海外では、多くの国で麻しんが流行しており、近年、タイ、フィリピン、インドネシア等の東南アジア、イタリア等の欧州からの麻しんウイルスの日本への輸入が継続して報告されています。そのため、海外渡航される時には、あらかじめ麻しんの予防接種歴を確認し、麻しんの予防接種を2回受けていない場合や接種既往が不明の場合には予防接種を受けるようにすすめています。

過去3年間の京都府における麻しん疑い患者の検査実績

	疑い患者数	結果
平成27年(2015年)	3	全て陰性
平成28年(2016年)	8	全て陰性
平成29年(2017年)	1	全て陰性
(参考)平成30年(2018年)※	5	全て陰性

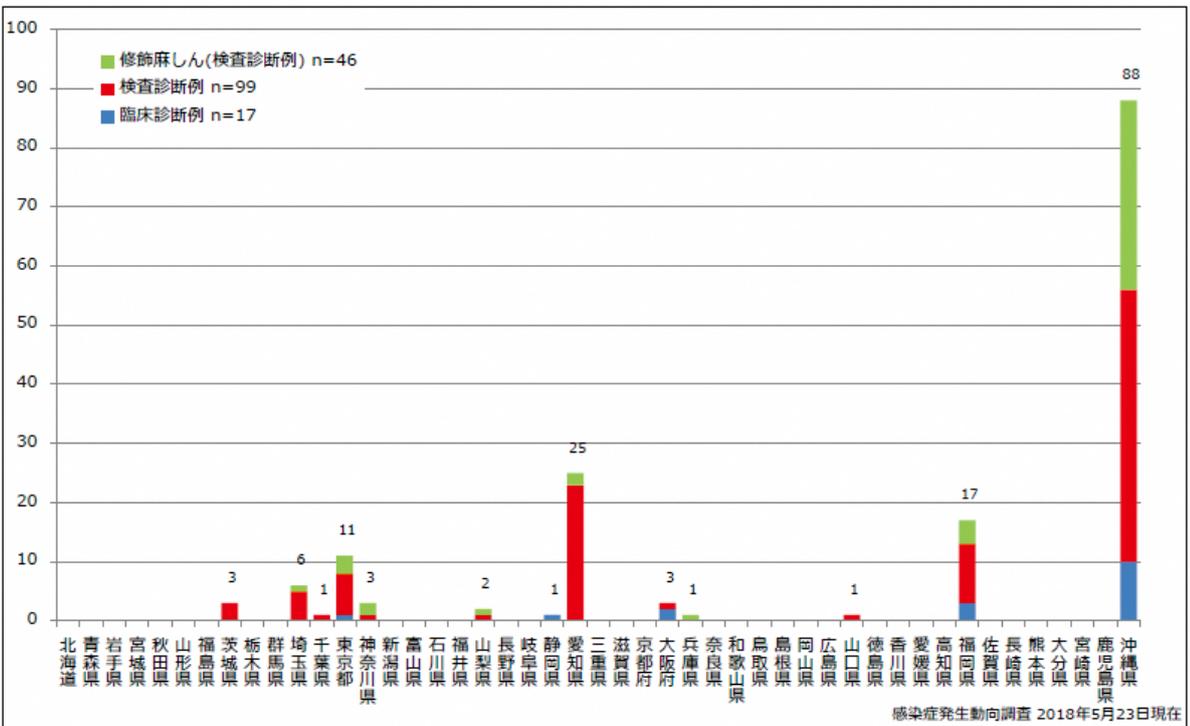
※平成30年5月29日時点

週別麻疹報告数 2018 年第 1 週～ 20 週（1 月 1 週目～ 5 月 2 週目）患者報告数計 162 名



出典：国立感染症研究所ホームページ（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/>）
 「麻疹 感染症発生動向調査事業 速報グラフ 2018 年第 20 週」を加工して作成
 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/222-disease-based/ma/measles/idsc/trend/575-measles-doko.html>)

都道府県別病型麻疹累積報告数 2018 年第 1 週～ 20 週（1 月 1 週目～ 5 月 2 週目）患者報告数計 162 名



出典：国立感染症研究所ホームページ（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/>）
 「麻疹 感染症発生動向調査事業 速報グラフ 2018 年第 20 週」を加工して作成
 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/222-disease-based/ma/measles/idsc/trend/575-measles-doko.html>)

☆いろいろなことにチャレンジできる夏休み、身近なところから「保健や環境」について少し考えてみませんか!

京都府市連携事業 「夏休み体験教室—科学の目で見なおそう身の周り—」 参加者を募集します。

昨年ようすから

○小学生コース

対象者 小学生4年生～6年生
日時 7月27日(金) 13:30～16:00
会場 京都府保健環境研究所
(京都市伏見区村上町395)

内容・定員 (応募者多数の場合は抽選)

- ①環境コース「ごみをリサイクルしてみよう」 20名
牛乳パックとペットボトルが大変身!
- ②保健コース「iPS細胞をみてみよう!」 20名
ヒトの体のしくみや成り立ちを学ぶとともに、
iPS細胞の実物をみてみよう。

※研究所内工事のため、自動車による送迎はお断りしております。



ムラサキキャベツの色の
変化でpHを調べました。



iPS細胞を顕微鏡で
見ました

○中学生コース

対象者 中学生
日時 7月27日(金) 13:30～16:30
会場 京都市衛生環境研究所
(京都市中京区壬生東高田町1-20)

内容・定員 (応募者多数の場合は抽選)

- ①環境コース「見てみよう空気や水のごれ」 20名
空気や、水の汚れはどうやって調べる?
- ②食品コース「しらべてみよう食の安全」 15名
毎日口にする飲み物、食べ物の安全はどう守ら
れているのだろうか?
- ③衛生昆虫コース「身近な昆虫について」 10名
身近にいる昆虫について知っているようで、
意外と知らないことが多い! 昆虫のことを学ぼう!

○申込方法

Eメール又ははがきに住所、氏名、電話番号(日中に
連絡のつく番号)、学校名、学年、年齢、希望のコース
を記入し、送付してください。

○**申込期間** 7月2日(月)から7月17日(火)まで《必着》

○**申込先・問い合わせ先**

小学生コース 京都府保健環境研究所 庶務課

〒612-8369 京都市伏見区村上町395

Eメール: hokanken@pref.kyoto.lg.jp

電話: 075-621-4067

中学生コース 京都市衛生環境研究所 管理課

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-20

Eメール: eikouken@city.kyoto.lg.jp

電話: 075-312-4942

○**その他**

参加費は無料です。

参加の可否は、締め切り後郵送でお知らせします。

編集発行 京都府保健環境研究所

発行日・平成30年6月

京都市伏見区村上町395(〒612-8369)

TEL(075)621-4067(庶務課)

621-4069(細菌・ウイルス課)

621-4167(理化学課)

621-4162(環境衛生課)

621-4163・4165(大気課)

621-4164(水質課)

FAX(075)612-3357

<http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/>

E-mail:hokanken@pref.kyoto.lg.jp



(交通機関) 京阪電車/伏見桃山駅下車 徒歩約10分
近鉄/桃山御陵前駅下車 徒歩約10分
市バス/西大手筋停留所下車徒歩約2分